

# 麻酔科外来って

## どんなところ？

今回は、麻酔科外来について、  
麻酔科の榎木先生にお話をうかがいました。



### 1 麻酔科外来の業務

当院の麻酔科外来の業務には、二つの柱があります。一つは術前診察と言って、これから手術を受けられる患者様の健康状態をチェックさせていただき、手術や病状に応じた安全かつ最適な麻酔方法を、オーダー・メイドで決定していくための大切な診察です。

もう一つはペインクリニックと言って、痛み（ペイン）に対する治療を行う外来（クリニック）です。今回は、痛みとそれに対して我々がやっている治療について、少し解説させていただきます。

### 2 傷みの悪循環

痛みというものは、誰もが忌み嫌う不快で恐ろしい感覚です。人が医療機関を訪れる動機の多くは、この痛みの

ためと言っても過言ではないでしょう。しかし、同時に痛みは、我々が生きていくうえで必要不可欠な、とても重要な情報でもあります。我々は痛みを感じることで、身体の不具合や損傷をいち早く察知し、危機的な状況に陥る前にそれを回避することができます。痛みはいわば、我々の身体を守るための警報と言っているでしょう。しかしだからと言って、この警報が意味もなく鳴り続けてしまったとしたら…!? 我々は、たまったものではありません。通常は、原因を突き止め、それを適切に治療していく過程で、痛みは回復とともにその役割を終え、去っていきます。しかし、時として原因がとくに治癒してしまっているにもかかわらず、痛みだけが異常に長引いてしまうことがあります。また、長時間強い痛みを身体が受けて続けているうちに、痛みの伝達機構が変調をきたしてしまい、本来は痛みではない感覚を痛みとして感じてしまう

ような事態も起こり得ます。こういった一筋縄では行かない痛みが生じる背景には、痛み自身がより強い痛みを引き起こす原因となる、「痛みの悪循環」(図)と呼ばれるものが深く関与しています。麻酔科の外来では、主として神経ブロックという手段を用いてこの悪循環を断ち、身体にとって有益でない痛みを取り除いていく治療を行っています。

### 3 神経ブロックとは？

神経ブロックとは、痛みを伝える経路となっている神経の途中に局所麻酔薬を作用させ、一時的に痛みの伝達を遮断(ブロック)する注射のことで、もともとは手術の際に痛みを取るための、局所麻酔の技術を応用し発展させてきたものです。

「でも、麻酔だったら切れたら終わりのじゃないの？」と思われるかも

だいぶ以前の話になりますが、麻酔科外来に紹介されてきた患者様が、「魔腫科に行くよ」と言われて来ました。と、手書きのメモを持って「られたことがあります。」「かかりつけのお医者様から、突然聞いたこともない科に行ってきたと言われ、何をされるのか戦々恐々としてやってきたその心中は察するに余りありますが、それにしても悪魔が眠るって…??」と思わず苦笑せすにはいられませんでした。最近でこそ報道やTVドラマ、映画などのおかげで、麻酔科医はなんとなく手術室では重要な役割を担っているらしいということが、ようやく世間にも認知されてきたように思いますが、こと麻酔科の外来のこととなると、いったい何をやっているところなのか？医療関係者ですら、よくご存知ない方もいらっしゃるのではなからうか？

しれませんが、原因がすでに治癒し、痛みだけが暴走してしまっているような状況では、一時的にせよ暴走を止め悪循環の輪を断ち切ることが、根本的な治療にもなり得るのです。また、神経ブロックは、交感神経の過剰な興奮

